



臨床美術ジャーナル Vol.2 No.1 (2013) 目次

【巻頭言】

発刊にあたって

六角 鬼丈 (臨床美術学会会長・東京藝術大学名誉教授)

【特別寄稿】

臨床美術と認知症医療の関わりー認知リハビリテーションとしての役割ー

宇野正威 (日本臨床美術協会・吉岡リハビリテーションクリニック)

脳波から脳活動を知る

武者利光 (脳機能研究所)

【第4回大会(2012年)特別講演】

明後日朝顔の種が船になる話

日比野克彦 (東京藝術大学・アーティスト)

【第4回大会(2012年)シンポジウム】

人々の創造性を開く道祖神としてのアート～効率化・標準化から人類の遡源へ～

北川フラム (アートフロントギャラリー)

造形と心「ドクメンタ 現代美術展 2012ー崩壊と再建ー」を見て

木戸修 (東京藝術大学)

美術が社会に果たす役割～震災後の活動の経験から～

日比野克彦 (東京藝術大学・アーティスト)

【第4回大会(2012年)国際大会(BESETO)特別講演】

Eastern and Western Medicine, Eastern and Western Art Therapy

Sun-Hyun Kim (CHA University)



【第4回大会（2012年）研究発表】

「観る」ことを促す対話の事例研究

フルイミエコ（京都〈臨床美術〉をすすめる会・アトリエ苗）

臨床美術における抽象表現

蜂谷和郎（芸術造形研究所） 他

点描表現についての考察 一木村クリニック・アールブリュでの臨床美術実践をとおして一

佐野江美子（芸術造形研究所）

自閉症児への臨床美術の実践

高橋文子（芸術造形研究所）

「保育現場における造形表現活動の実態調査」 一宮城県現任保育士アンケート調査より一

保坂遊（聖和学園短期大学）

【第3回大会（2011年）研究発表】

脳神経疾患に対する臨床美術療法の効果

一認知症をはじめとする脳神経疾患に対する様々な「脳刺激療法」の取り組み一

大貫学（埼玉医科大学総合医療センター）

保育現場における造形活動の課題に対する臨床美術介入の可能性と意義

青木一則（東北福祉大学）